

新春座談会

可児で暮らす魅力



市内で働く、可児工業高等学校の有賀昭人さん、有限会社亀谷電気商会の亀谷孝太さん、株式会社カケフ住建の岡北渚沙さんの3人をお招きし、富田市長との対談を通じて「働く」「子育て」という観点から可児市の魅力について語り合いました。(文中、敬称略)

問合せ先 広報課

可児ってどんなまちだろう？

有賀 私は11年間可児工業高校で勤務していました。今年の4月からまたお世話になることになりましたが、大きく発展したイメージがあります。瑞浪の自宅から通勤するときに、以前はあまり良い道はありませんでしたが、道路が整備され、近い距離に感じますね。工業団地もあって、岐阜県の中でもまちの発展が自覚できています。

岡北 私は大学時代に県外へ出ましたが、可児に戻って就職しました。小さな公園がたくさんあるイメージがあって、子どもの頃は、いろんな公園を渡り歩いて遊んだ記憶があります。去年の広報1月号の座談会にもあったように、都会すぎず田舎すぎず、ちょうどいいまちだなという印象を持っています。電車1時間乗れば名古屋に出られますし、市内でも十分お買い物ができます。

亀谷 私は生まれも育ちも可児です。可児高校に通っていたときは、周りにはコンビニが1件あったくらいで、田んぼしかなかったという記憶があります。大学を卒業して就職のために名古屋に出ましたが、可児に戻ってきたら大きく発展したという感じで夕食を食べることができて幸せだなと思います。

可児ってどんな企業があるの？

有賀 可児は高速道路のインターチェンジもあるなど、企業にとっても立地条件が良い場所だと思います。工業団地を中心に製造業が盛んで、良い企業が多いですよ。

岡北 私は就職活動をするまで、現在務めている会社を知りませんでした。可児の企業を知る機会が少なかったと思いますが、知るためにはどうしたらいいのでしょうか。

市長 市は、ワークライフバランスに取り組み、働く人を大切にする企業を応援する「可児わくわくWorkプロジェクト」という政策を進めています。市が皆さんに直接企業を紹介することはできませんが、この制度に登録していただいた企業の一覧を高校生や県外の大学に進学した人などにお渡ししていきたいと考えています。一度可児を離れた人にも、地元へ戻って就職できるよこに、将来の選択肢となるのではないかと。

有賀 産業フェアでは多くの企業が見えましたが、本校でも市内にある企

印象を持ちました。
今は商工会議所の活動で各地に行く機会が多く、観光地は魅力があつていいなと思いますが、可児はインフラも整備され、よく行くのも便利ですし、何より帰ってきてほっとするなと思って生活しています。

有賀 田んぼが広がる地域もあり、おいしいお米や里芋などの良質な農産物に恵まれた場所だと思います。人も自然も豊かな土地だなと思います。

亀谷 自分で料理するのにもあります。が、可児市などに行くと、地元で採れる里芋などの良質な野菜が、安く手に入っていていいですね。

可児で働く「よこ」ってなに？

岡北 私は親の勧めもあり、縁あって地元の会社に入社しました。会社は地域密着型の企業で、屋根の下で暮らす幸せな家族を支えることができて、仕事だと思って決めました。自分のやり方を尊重してくれるので、やりがいを持って仕事に取り組むことができます。

亀谷 私は電気工事業を祖父から引き継いでの代目ですが、自宅から近い現場が多く、地元で仕事ができ

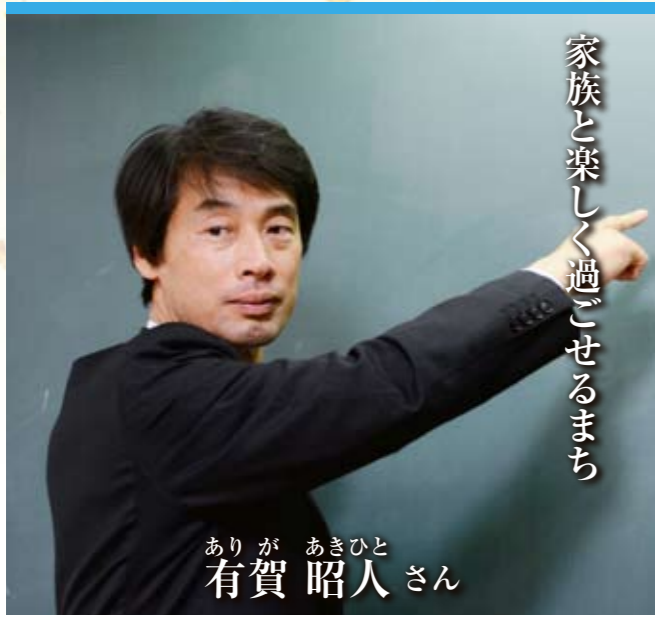


自分の時間を持つことができます

おかきた なぎさ
岡北 渚沙さん

プロフィール
平成3年生まれ。広眺ヶ丘在住。可児高校を卒業後、県外の大学に進学。平成27年から株式会社メトカケフ住宅事業部(現株式会社カケフ住建)に勤務。会社では営業事務を担当。

株式会社 カケフ住建
株式会社カケフホールディングス(可児わくわくWorkプロジェクト登録企業)の事業会社。太陽光架台や一般・集合住宅の設計、部材加工、施工を一貫して行う。本社は二野。



家族と楽しく過ごせるまち

あきひと 有賀 昭人 さん

プロフィール

昭和37年生まれ。瑞浪市在住。可児工業高等学校には、平成6年度から平成16年度まで11年間教諭として勤務。平成29年4月から新たに教頭として勤務。

岐阜県立可児工業高等学校

昭和38年開校。専門技術の習得はもちろん、挨拶や遅刻防止指導を徹底するなど、地域や企業に信頼され、社会に適応できる生徒を育成する。

業を生徒に知ってもらうため、文化祭で企業ブースを出していただきました。今年も生徒や保護者から大好評でした。



企業の担当者の話を聞く可児工業生

住みやすいから働き続けられる

有賀 企業によって、いろいろな人材が求められます。ミスマッチをなくし、適材適所に生徒を送り出すためには、企業にも学校にも情報が必要です。本校では、卒業生の声を次の生徒たちに生かすようにしています。

いろいろな企業から求人を出されていますが、高校側も生徒を送り出す際、地元の企業とはお互いに信頼関係も構築できている、安心感があります。卒業生たちも職場で先輩が後輩の面倒を見てあげたりすることもあるように思います。

市長 いい会社だけでなく、なじみがない企業をPRすることは行政の役割だと思います。

たちそれぞれが元気に育つよう応援したいと思います。

その上で、親子でゆとり楽しめるイベントや、地域で手作りしたものの販売、高齢者の健康づくりなど、いろんな世代の人が交流できる場になるようにしたいですね。

亀谷 自分が子育てするようになって、例えば歩道一つ取っても、なんでもなんに段差が多いのかなど細かいところも気になりました。世の中には共働きで子育てに参加しにくい父親もいるので、集まりやすい場所になるように思います。

可児で「子育て」する

と思います。可児には世界的な企業もありますし、従業員を大切にしている企業が多くあります。地域で育った子どもたちなので、地域愛があるからこその働き続けることができるのだと思います。また交通の便が良いこともあって、近隣市町からなど比較的働き手が集まりやすいですね。

亀谷 今は共働きで子育てをしています。が、二ユースで聞いていた待機児童の問題にはあまりピンときていませんでした。保育園の手続きについてよく分かっておらず、申し込みが遅れたのですが、幸いにも入園することができました。都会なら入園できなかつたと思うし、もし保育園に入れなかつたら、違ったライフスタイルになっていったと思います。

市長 可児でも待機児童や隠れ待機児童が出たことはありますが、保育園を増やすなど対応しています。ただ保育士不足の問題はあります。

有賀 自然や歴史もあり、子どもにとっても魅力がいろいろありますね。

市長 可児は歴史あるまちで、自然も身近に感じられます。これらを生か

岡北 小さい頃からお年寄りなど多世代の人と交流できるのは良いことだと思います。私も小学生の頃、近所のおじいちゃんやおばあちゃんに育てた花を渡しに行ったことをよく覚えていています。

市長 小さい頃からお年寄りと接する機会は大切ですね。可児は小中学生が地域活動に参加する割合が高く、学校と地域が連携して子どもを育てているのが大きな特徴です。こうして育った子どもたちが地元に着てきて、外に出て戻ってきたり、地域の人の良さを知りな

すためにも歴史や自然と触れ合う仕掛けが大切です。木曾川沿いに子どもが水遊びができるような動きも出ています。

子育て健康プラザ「Meion」に期待

有賀 可児駅前に今年の春開館する子育て健康プラザの愛称が「Meion」に決まりましたね。

岡北 今後子育て世代になっていく上で、親子で楽しめるイベントなどが多くあるといいですね。家族で出掛けても子どもと一緒に楽しめる

がら生活していけることが可児市の良さだと思います。



子育て健康プラザの外観と内観(イメージ)

未来の可児はどんなまちっ..

亀谷 子どもの将来のことを考えると、産業が発展しても、自然と共存できるまちであってほしいです。私は最近子どもと、芝生が広がるふれあいパーク・緑の丘にお弁当を持って遊びに行きました。小さい頃から安心して、自然の中で遊べるこうした場所をいつまでも大事にしたいですね。

岡北 自然が周りにある環境というのがすてきだと思います。子どもの頃は身隠山でよく遊び、今も花フェスタ記念公園で花を見るのが好きです。今住んでいて近くにお買い物もできるし、暮らしやすいなと思います。子どもたちがそつした自然の中で遊ぶところもほしいですね。

有限会社 亀谷電気商会

創業65年の下恵土にある電気工事店。市内を中心に工場や住宅、店舗などあらゆるニーズに対応。最近では屋外看板照明やアーラのイルミネーションなど、魅せる照明にも力を入れている。



かめがい 亀谷 孝太 さん

プロフィール

昭和55年生まれ。下恵土在住。有限会社亀谷電気商会の代表取締役。平成29年から可児商工会議所青年部部長を務める。4歳の娘を育てる一児の父親。

場が少ないというところを聞くので、そういった場になるといいなと思います。

市長 子どもが保育園から小学校、中学校へと成長するにつれて、いろいろな状況が出てきます。それぞれの子どもに合わせて、専門家に気軽に相談できるのが子育て健康プラザの一番の役割です。今は子どもの数は減つても、トラブルは増えている時代です。親が少しでも早く専門家に相談できれば解決できる事例も少なくありません。子どもを遊ばせながら親が相談でき、可児で生まれた子ども

有賀 安心感がある、穏やかに過ごせるまちだと思います。そのためには経済力や仕事が大切で、ワークライフバランスが重要になってくると思います。交通の便も良く、家族で楽しく過ごせるまちなので、こうした暮らしが続けられるように思います。

市長 『穏やか』というのは本当に大切で可児の風土でもあります。この地域も住めば都ですが、歴史の中でつくられてきた自然や環境を守りながら、時代に合わせて維持することが大切だと思います。

今の可児を支えているのは高齢者の元気です。通学路の見守りや自然環境の整備など、まちづくりに大きく貢献してくれています。次の世代の循環をつまぐすために、若いうちから地域の人たちと交流し、働く世代になって、自分たちがしてもらったことを次の世代に引き継いでいくことが重要です。今年、可児工業高校の皆さんと一緒に竹あかりのイベントを行いました。若い人に地域活動に興味を持ってもらえるように、地域のつながりの場をつくらせていきます。その「住みよさ」が「可児」を実現できるはず、皆さんがおっしゃったことを政策につなげていきたいと思っています。